

## 森林環境税を活用した取組に対する懇談会委員の意見

「タウンミーティング開催結果」「市町村・関係団体アンケート結果」「県民アンケート集計結果」を踏まえた、森林環境税を活用した取組に対する森林の未来を考える懇談会委員の意見は次のとおりであった。

### 1 制度の枠組み・継続に関して

- 森林環境税の制度は今後も継続し取り組むべきである。
- 新たな取組を加え継続して取り組むべき。
- 第3期森林環境基金事業は評価されるべきものと思われる。
- 限られた予算で効果を高めるため、各事業同士の相乗効果を促すこと。
- 事業を絶えず見直し、さらに良いものにしていくことを望む。
- 5年程度で制度や施策を見直していく。

### 2 森林環境の適正な保全に関して

- 荒廃した森林の整備を求める意見が多かったことが印象的。
- 自然を理想的な状態に整備し保護することは最も大切な課題。
- 適切な（森林）管理を早急に計画的に実施する必要がある。
- 「森林環境の適正な保全」が大切。
- 森林環境の適正な保全「水源林などの荒廃した森林の整備」「里山林整備」は、森林環境税を含めて森林政策として取り組むべき。
- 新たな取組として「荒廃した森林の整備」「伐採後の森林の再生の推進」を重点課題として取り組むべき。
- 「水源林などの荒廃した森林の整備」「未利用材等、充実した資源の利用」「里山林や竹林の整備」が大切な取り組み。
- 野生動物が通学路にも出没し危険。「里山林整備事業」の取組内容を強化し継続して取り組み、安心して森に立ち入れる環境づくりに取り組むことを要望する。
- 「森林整備促進路網整備事業」は取組内容を強化し、継続して取り組むべき。
- （森林環境の）適切な保全・管理等の事業を重点的に実施すべき。
- 森林整備の要望は高いが評価は高くない。分析・検討して事業展開。

### 3 市町村が行う森林づくりに関して

- 「市町村が行う森林づくり」は重点的に取り組むべきである。

### 4 森林資源の活用による持続可能な社会づくりに関して

- 「林道への支援」の非常に共感できる。林道の整備により震災後放置された森林を整備し、震災以前のように家族や子供が安心して過ごせる森に戻して欲しい。
- 「森林資源活用で持続可能な社会づくり」「未利用材等資源の活用」は、森林環境税を含めて森林政策として取り組むべき。
- 10～40歳代の地球温暖化問題への関心が高く、SDGsを踏まえた取組が必要。

- 「森林資源の活用による持続可能な社会づくり」が大切。
- 「ふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業」は継続・拡充が必要であり、県外からの移住者の増加を図ることは大変重要な取組み。「花粉の少ない森林づくり事業」は県内外にアピールしやすい取組。
- 「ふくしまの低炭素社会づくり推進事業」力を入れるべき。
- 住宅支援や木質バイオマスなど今までの事業を継続しながらCO<sub>2</sub>削減に直接つながる事業を新たに展開してもらいたい。
- 地球温暖化の防止のため、温暖化ガスを吸収するための植樹に重点的に取り組むべき。

## 5 県民参画による森林づくり

- 「森林づくりの提言」は県民の意識にも沿っており、提言の実現に向けて目標を設定すること。
- 「人間と森林が仲良く共生していくためには、どうすればよいか」という視点で事業を進めて欲しい。
- 森林をもっともっと身近で魅力的な存在へと変える必要がある。
- 「森林づくりの提言」に示した森林環境教育・学習・活動の循環・体系化、しっかりとしたプログラミング、地域の特色を生かした森林整備。
- 「もりの案内人」は認定者数ではなく、認定後、活動している人の水準等を評価すべきである。
- 「みんなで伝えよう森森元気事業」「森林環境情報発信事業」は強化して取り組むべき。各地方で森林環境（フィールド）の整備や植樹祭の開催などに取り組むべき。

## 6 森林環境等情報の発信

- 納税者一人一人が税制について認知する必要がある。
- 認知度が低い。関係団体等を利用した情報発信により認知度を上げる必要がある。
- 認知度が低い。効果的な広報・周知の事業化について検討が必要。
- 国の森林環境譲与税、県の森林環境税の内容の認知を高めるべき。
- 「継続すべきでない」理由が、「取組内容が分からない」であったので、取組内容含めて税制の周知を図る必要がある。
- 放射性物質の影響の心配が大きく減っていることは、好ましい評価。
- 税制の認知度が低い。取組内容も含めPRすべき。また、国の森林環境譲与税も併せて周知を図るべき。
- 県民が誇りをもって取組に参加できるよう、関心を持てる情報発信が必要である。
- 国の森林環境譲与税との棲み分けを、目的・成果の両面から県民に分かりやすく説明。
- 評価に当たって目標の数値化を意識。